

第3学年 「総合なかよし」学習指導案

1 単元名「わたしたちの町のすてき発見」 ～ようこそ！！みんなのうなぎタウンへ～

2 単元について

児童の実態

「総合的な学習の時間」に関しては、すべてが初めての経験であり、学び方を学習しながら進めている段階である。児童は2年生の時、生活科の学習で町探検を行い、地域の人とふれ合い、調べたことを発表する経験を積んでいる。また3年生では、地域を散策し、自分たちの町の様子を詳しく調べて地図を作成した。しかし、図書資料を活用してじっくり調べ学習を行う経験はまだ少ない。

本校の保護者の中には、幼い頃から本学区に住んでいる方もいるが、多くは他市からの転入であり、歴史的なものや古くから残されているものについての興味関心が薄い。しかし、「浦和のうなぎ」が有名であることは、3年生でも知っている児童が多く、学区の名店に、家族で食べに行ったという話もしばしば耳にする。また、さいたま市役所広場では毎年5月の休日に「うなぎまつり」を開催しており、本校の児童も気軽に訪れている。

そこで、3年生では「うなぎ」という身近な学習素材を活用し、地域に残る伝統や誇りに触れさせていきたい。うなぎは、生き物が大好きな3年生の児童にとってたいへん興味深くユニークな魚であるが、簡単には手に入らない。浦和の名店のうなぎは、高級品である。なぜ、この町にうなぎの名店が多いのか、うなぎ屋さんは、どんな思いで伝統を守っていかようとしているのかを調べていくことで、「わたしたちの町に今も残るすてき」に気づき、自分にとって大切だと思うことをみんなに伝えられる児童を育成していきたい。

単元の特性

本単元では、地域の伝統的なものとして今も残る「うなぎ」を扱う。江戸・明治の頃は、浦和市内を流れる天王川や藤右衛門川、また沼地で多くのうなぎが採れ、中山道を利用して地方と江戸を行き交う人々の間で、売り買いされていた。そのため、今も浦和のうなぎは有名であり、市内で「うなぎまつり」を開催したりして浦和の伝統的な味を残そうとしている。

まず、浦和といえど何を思い浮かべるか、という問題から自分たちの町のよさ探しをする。そして、出てきた中の様々なものから「うなぎ」を取り上げる。市内のうなぎ店の数や自分の身近でうなぎを食べに行く人の数などを調べることで、「うなぎのまち浦和」を意識させる。そこで、うなぎ店を営む方やうなぎ文化を残そうと活動されている方をGTとして迎え、苦労や名店を残したいという思いにも触れさせる。そこから、自分たちにも「浦和のうなぎ」をアピールするために何ができるかを大きなテーマとし、全体の活動のもとにさせていく。

3年生にとっては初めての総合的な学習の時間なので、「うなぎ」という教材をもとに、調べ方やまとめ方を指導していく。また国語で学んだ話し合いのスキルを生かし、同・異課題グループとの話し合い、情報交換の場を多く設定し、主体的に追究する学習にしたい。最後に、3年生らしい表現方法でまとめ、得た情報から大切だと思うことを選んで発表し、総合の時間が楽しいと思えるような授業形態を工夫する。友だちと仲よく探究活動ができたか、1時間ごとに「うなぎパスポート」を使って振り返り、最後にうなぎ屋さんから「うなぎ証明書」に印を押してもらうなど目標をもって最後まで取り組めるように工夫していく。

3 研究の視点

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成
身近な「ひと・もの・こと」とかかわり合いながら、自己の生き方を考える子をめざして

研究の視点1：気づき・発見・かかわりと繰り返しを意識した単元計画の構成と「ひと・もの・こと」
を意識した地域の教材開発

手立て① 探究的に積み上げる単元計画の工夫

自分たちの住んでいる「浦和」のすてき探しを行い、サッカーをはじめ、様々な素敵を見つけさせる。そこから、地域の特徴を生かし、「うなぎ」に視点を絞り活動を進める。「うなぎ店の数」「うなぎを食べに行く回数」などを調べると、「浦和はうなぎのまち」ということに気づく。そこで、「浦和のうなぎ」にかかわる人々の思いにふれさせることで「浦和のうなぎをもっとアピールするために自分たちにできることはないか」というテーマをつくる。最後までそのテーマに沿った探究活動を展開していきたい。そのために、教師がうなぎに関する新たな情報を提供して、意欲的に探究活動が続けられるようにする。なお、3年生は総合的な学習の時間のすべての学習過程が初めてであるため、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の方法をしっかりと身につけさせたい。

手立て② 「ひと・もの・こと」と地域に意図的にかかわらせる工夫

5月の休日に市役所広場で行われた「うなぎまつり」への参加を呼びかけ、「なぜ、浦和でうなぎが有名なのか」という疑問をもたせる。また、学区内にあるうなぎの名店訪問をしたり、うなぎ屋さんや「浦和のうなぎを育てる会」の会長さんのお話を聞いたり体験活動を取り入れたりすることで、地域と意図的にかかわらせる。

研究の視点2：「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」場面における子ども
につけさせたい力（目標）の明確化と指導・評価の工夫

手立て③ 課題解決をするための資質や能力を高める指導の工夫

課題を解決するためにさまざまな方法があることを指導する。本校は、図書館や市役所、文書館など学区内にいろいろな公共機関がそろっているので活用を呼びかける。多くの資料を持ち寄った上で、同課題グループで整理・分析を行ったり、異課題グループどうしで伝え合ったりする。また、課題を解決するためには、人に聞くことが最も大切であることから、浦和のうなぎを食べたことのある人やうなぎ屋さんへのインタビューを行い、さらに深めていく。

手立て④ 自己の生き方につながるまとめと評価の工夫

保護者や他学年の友だちに自分たちの調べたこと、うなぎ屋さんの思い、「浦和のうなぎ」のよさについて「仲町うなぎまつり」で発表する。これらの学習を通して、町の「すてき」を発見し、なぜその「すてき」を選んだのかをみんなに伝えていけるようにする。

4 単元の目標

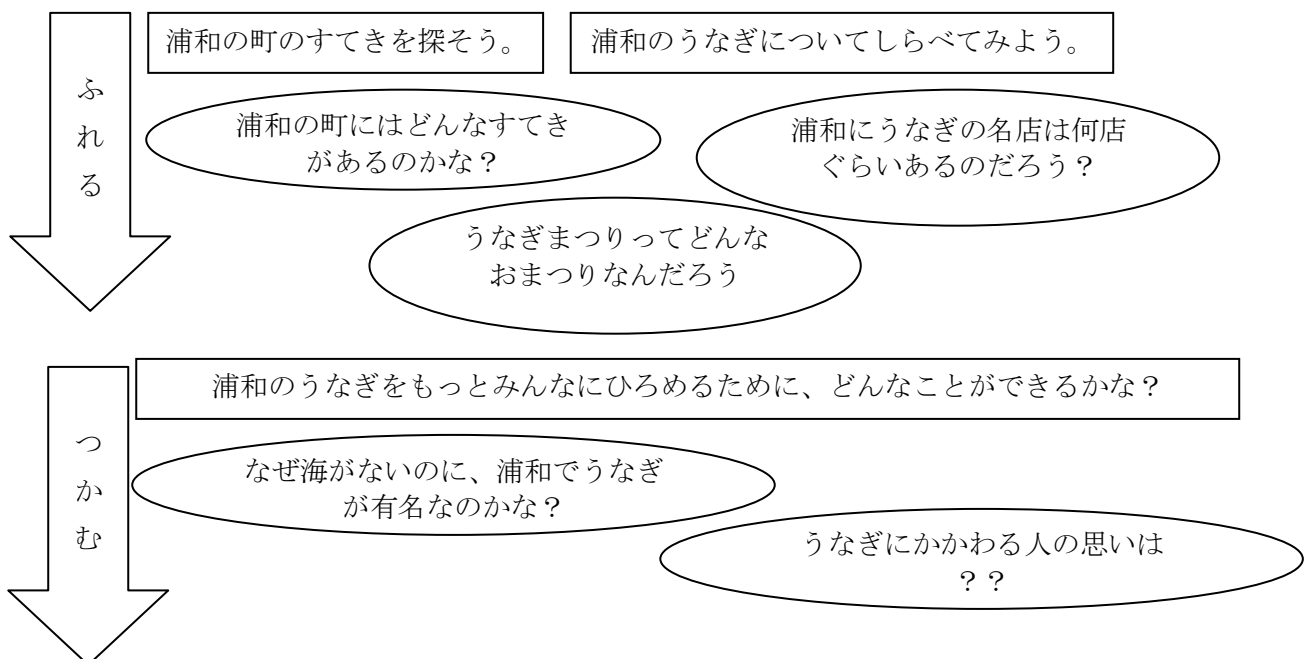
- 「浦和のうなぎ」がなぜ有名なのかを調べることで、この町のよさや浦和のうなぎを守っていかうとする人々の思いがわかり、大切なことをみんなに伝えることができる。

5 単元の評価規準

育てたい資質や能力及び態度	学習方法に関すること	<p>【①課題設定 ②収集分析 ③思考判断 ④表現省察】</p> <p>①「浦和のうなぎ」がなぜ有名なのかに興味をもち、いくつかの課題の中から調べてみたいことを選択することができる。</p> <p>②課題解決のためにグループで協力して必要な情報を集めることができる。</p> <p>③集めた情報をもとに、浦和のうなぎがどのように受け継がれてきたのかを考えることができる。</p> <p>④集めた情報を整理し、相手や目的に応じてわかりやすくまとめて伝えることができる。</p>
	自分自身に関すること	<p>【⑤意思決定 ⑥計画実行 ⑦自己理解 ⑧将来展望】</p> <p>⑤浦和のうなぎを調べていき、何をどのように伝えるのか意思決定することができる。</p> <p>⑥浦和のうなぎについて得た情報から必要な情報を選んで、自分たちにできる方法で伝えることができる。</p> <p>⑦浦和のうなぎを守るために自分でできることを考えることができる。</p> <p>⑧自分たちの住んでいる町のすてきなところに気づき、何をみんなに伝えていきたいか考えることができる。</p>
	他者や社会のかかわりに関すること	<p>【⑨他者理解 ⑩協同 ⑪共生 ⑫社会参画】</p> <p>⑨「浦和のうなぎ」を残そうとする人々の思いを受け入れることができる。</p> <p>⑩同じ課題を選択した友だちと協力しながら、浦和のうなぎについて調べたり、まとめたり、表現したりすることができる。</p> <p>⑪町に古くから残るものを大切にしていこうという思いをもって生活することができる。</p> <p>⑫「浦和のうなぎ」のよさについて、たくさんの人々に伝えることができる。</p>

6 単元の全体構想（52時間扱い）

わたしたちの町のすてき発見



さ
ぐ
る

自分の課題の解決に向けて情報を集めよう。

集めた情報を整理して振り返ろう。

浦和のうなぎについて、本やコンピュータで調べよう。

たくさん調べたけど、どの情報をまとめればいいのか？

みんなにアンケートやインタビューもしてみよう。

調べたことやわかったことをいろんな方法でまとめよう。

どんなまとめかたがいいかな。

これまで調べられなかったことを直接うなぎやさんに聞いてみたいな。

うなぎ屋さんにインタビューする計画を立てよう。

うなぎ屋さんはどんな気持ちでお仕事をしているのかな。

うなぎ屋さんがしている工夫を見に行ってみたいな。

うなぎ屋さんに実際に見学に行こう。

お客さんのために床が温かくなっているんだね。

うなぎを焼く所ってこんなに広いんだね。

わ
か
る

「ようこそ！！みんなのうなぎタウンへ」の準備をしよう。

これまで調べたことを上手に生かしてPRしよう。

どんなふうに調べたことを入れると伝わるかな、よく考えよう。

できた作品をうなぎ屋さんや多くの人にも見てもらいたいな。

「ようこそ！！みんなのうなぎタウンへ」について振り返ろう

お世話になったうなぎ屋さんにお礼の手紙を書きたいな。

うなぎ屋さんからうなぎパスポートに印をもらえてうれしいな。

ひ
ろ
め
る

7 A 本時の活動計画（12時間／52時間）

授業者 3年4組 其原純也

(1) ねらい

- ・ 「浦和のうなぎ」について不思議に思ったことや考えたことを話し合い、そこからさらに知りたいことを話し合うことができる。

(2) 評価の観点

- 「浦和のうなぎ」がなぜ有名なのかに興味をもち、いくつかの課題の中から調べてみたいことを選択することができる。 【課題設定】

(3) 展開

学習活動・内容	評価（◇）と評価方法[] 指導・支援（○）	時間
1 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「浦和のうなぎ」についてふしぎに思ったことを、うなぎにくわしい方をまねいて聞くじゅんびをしよう。 </div>		3
2 グループで話し合う。 ・ 前時の活動を振り返りながら、不思議に思ったことを話し合う。	○「浦和のうなぎ」について、調べたけどまだよくわからない、不思議と思うことを、浦和のうなぎにかかわる方を招いて聞くことができることを知らせる。	1 2
3 全体で話し合う。 〈浦和のうなぎを育てる会会長さんに聞きたいこと〉 ・ 海のない浦和でなぜうなぎが有名なのか。 ・ 浦和のうなぎの歴史。 〈老舗のうなぎ屋（山崎屋）さんに聞きたいこと〉 ・ うなぎ屋さん、どんな思いで働いているのか。	○全体で前時までに調べてきたうなぎの不思議についてふりかえり、本時の課題への意欲づけをはかる。 ○生活班グループでの話し合いを行うことにより、話し合いの活性化をはかる。 ○ゲストティーチャーとの打ち合わせから、子供に必ず聞かせたい内容を押さえておき、全体の話し合いの流れを意図的にリードする。 ◇浦和のうなぎについて不思議に思ったことや考えたことを話し合い、そこからさらに知りたいことを話し合うことができたか。 【観察・ワークシート】	1 5
4 伝え方の練習をする。 〈伝える内容〉 ① なにを調べてきたか ② 調べてなにが分かったか ③ 調べて疑問に思った・不思議に思ったこと	○次回のゲストティーチャーとの交流で、伝えたいことがはっきり話せるように、グループで伝え方の練習をさせる。 ○グループ内で誰がどの部分を話すかを分担して練習するよう指示する。	1 0
5 本時のまとめをする。	○次回のゲストティーチャーとして招く方の写真を用意し、紹介しながら見せることで、次時への意欲をもたせる。	5

7B 本時の活動計画（13時間／52時間）

授業者 3年1組 船岡早苗

(1) ねらい

- ・ 「浦和のうなぎ」を残そうとする人々の思いに興味をもち、必要な情報を集めることができる。

(2) 評価の観点

- 「浦和のうなぎ」を残そうとする人々の思いを受け入れることができる。 【他者理解】

(3) 展開

学習活動・内容	評価（◇）と評価方法[] 指導・支援（○）	時間
1 学習課題を知る。		5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「浦和のうなぎ」のふしぎを聞いてみよう！</div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲストティーチャーの紹介 「うなぎのお店」の方 「浦和のうなぎを育てる会」の方 2 ゲストティーチャーからお話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 調べたことや不思議に思ったことの発表 (2) ゲストティーチャーからのお話 (3) 質問タイム 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に、うなぎのお店や「浦和のうなぎを育てる会」の方に児童の考えていることを伝え、活動の打ち合わせをしておく。 ○まず、児童が調べて分かったことや不思議に思っていることなど自分の考えをゲストティーチャーに伝え、情報をもろうように準備させておく。 ○ゲストティーチャーの話聞いて、児童が調べたことを確認したり、不思議に思ったことを解決したりできるように考えさせる。 ○自分の考えや新たに疑問に思ったことなどを質問し、自分の考えを確かめる場面を設定する。 	25
3 お話を聞いて分かったことやこれからやってみたいことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことができるか ・ どんなことをやってみたいか ・ ゲストティーチャーから一言 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りの視点として、うなぎ屋さんや育てる会の方々の思いから、自分たちがこれからどうかかわるか考えさせる。 ◇「浦和のうなぎ」を残そうとする人々の思いを受け入れることができる。 [ワークシート・話し合い・発表] 	10
4 本時の振り返りを行う。	○次時からは、自分の課題を追求していくことを伝え、意欲を高める。	5